

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では3つの変化傾向がみられる。1つめは、解決前パターン5（複合的清拭拒否）から、解決後パターン4（清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった）へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

2つめは、解決前パターン4（入浴・清拭という言葉聞くだけで拒否していた）から、解決後パターン3（入浴・清拭という言葉聞いても嫌がることは減った）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。

3つめは、解決前パターン3（暴言、暴力を伴いながら拒否していた）から、解決後パターン1（拒否の回数が減り、応じる回数が増えた）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。（表2-5-3-7参照）

次に高齢者パターン1（一部介助、中程度重症度）に限定してみると、上記3つの傾向のうち、1つめと2つめの傾向が認められ、3つめの傾向は認められない。（表2-5-3-8参照）

高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）に限定してみるとやや違った傾向がみられる。1つめは、解決前パターン6（入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた）から、解決後パターン4（清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった）へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

2つめは、解決前パターン4（入浴・清拭という言葉聞くだけで拒否していた）から、解決後パターン5（拒否することが全くなかった）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。

3つめは全体の傾向同様に、解決前パターン3（暴言、暴力を伴いながら拒否していた）から、解決後パターン1（拒否の回数が減り、応じる回数が増えた）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。（表2-5-3-9参照）

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによってやや異なることがわかる。

（4）高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した（注2）。

解決前の状況は高齢者パターンでやや異なっている。高齢者パターン1（一部介助、中程度重症度）では「色々な理由をつけて拒否していた」が61.0%であるのに対して、高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）のそれは29.9%と2倍の格差がある。また、高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）では「暴言、暴力を伴いながら拒否していた」が37.8%に対して、高齢者パターン1（一部介

助、中程度重症度)のそれは16.9%と2倍以上の格差がある。(表2-5-3-10参照)

解決後の状況については、高齢者パターンによる差異はみられない。(表2-5-3-11参照)

(注2) 潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス1に対して0.97、クラス2に対して0.03、(全クラスへの帰属確率合計は1.00である)となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

4) 清拭拒否の解決方法

清拭拒否で解決経験がある239件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

(1) 解決方法の概況

清拭拒否を解決する時に行った解決方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して33分類した。分類結果は、清拭方法の工夫に関するものが6分類、誘導の工夫に関するものが9分類、声かけの工夫に関するものが7分類、清拭環境の調整に関するものが5分類、介助者の工夫に関するものが4分類、その他が2分類であった。

有効回答217件のなかで多くあがったものは、「声かけの態度の工夫」が142件(65.4%)、「信頼関係が出来ている介助者」が115件(53.0%)、「気持ちをくつろがせる」が104件(47.9%)、「お礼やねぎらいを」が96件(44.2%)、「1人」が88件(40.6%)、「コンプレックスを確認」が80件(36.9%)、「温度調節」が71件(32.7%)、「清潔、血行など効果を説明」が68件(31.3%)、「トイレ時に実施」が65件(30.0%)、「家族からの依頼」が61件(28.1%)、「部分から開始」が55件(25.3%)、「声かけを簡単に」が53件(24.4%)、「薬を塗るため」と「複数のスタッフ」が各52件(24.0%)、「清拭布の温度」が49件(22.6%)、「清拭場所の調整」が46件(21.2%)、「清拭時間を本人のペースで」が44件(20.3%)などであり、1事例あたり平均6.5項目あげられた。(表2-5-4-1参照)

(2) 解決方法の組み合わせパターン

33分類のなかから1事例平均6.5の方法で構成された解決方法を実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した(注3)。その結果14の組み合わせパターンを得た。

第1パターンは平均6.4項目の組み合わせであり、「温度調節」(73.2%)、「信頼関係が出来ている介助者」(69.0%)、「部分から開始」(62.9%)、「お礼やねぎらいを」(58.2%)、「声かけの態度の工夫」(51.3%)の5項目を主として、「清拭布の温度」(48.0%)、「コンプレックスを確認」(41.0%)、「薬を塗るため」(36.4%)、「家族からの依頼」(32.3%)、「内科受診のため」(30.4%)、「暖かいタオルを渡し自分で」(26.6%)などで構成されている。第1パターンの該当事例は27件(12.4%)である。

第2パターンは平均3.9項目の組み合わせであり、「声かけの態度の工夫」(91.6%)を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」(55.7%)も多く、「清拭時間を本人のペースで」(48.0%)などで構成されている。第2パターンに該当する事例は24件(11.1%)である。

第3パターンは平均5.0項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらいを」(99.6%)を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」(68.1%)も多く、「気持ちをくつろがせる」(48.3%)、「他者から誘導」(39.0%)、「家族からの依頼」(36.8%)、「清拭場所の調整」(33.7%)、「声かけの態度の工夫」(33.3%)などで構成されている。第3パターンに該当する事例は23件(10.6%)である。

第4パターンは平均7.8項目の組み合わせであり、「声かけの態度の工夫」(99.8%)、「信頼関係が出来ている介助者」(94.8%)、「1人で」(93.0%)、「コンプレックスを確認」(91.9%)の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」(62.5%)と「トイレ時に実施」(50.8%)も多く、「お礼やねぎらいを」(43.9%)、「清潔、血行など効果を説明」(33.3%)、「薬を塗るため」(32.5%)、「温度調整」(27.2%)などで構成されている。第4パターンに該当する事例は22件(10.1%)である。

第5パターンは平均5.2項目の組み合わせであり、「薬を塗るため」(99.4%)を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」(59.5%)も多く、「気持ちをくつろがせる」(47.3%)、「部分から開始」(34.5%)、「信頼関係が出来ている介助者」(41.5%)、「複数のスタッフ」(41.3%)、「声かけを簡単に」(40.3%)、「コンプレックスを確認」(34.4%)などで構成されている。第5パターンに該当する事例は17件(7.8%)である。

第6パターンは平均4.7項目の組み合わせであり、「清潔、血行など効果を説明」(99.5%)を共通ベースとして、「トイレ時に実施」(68.9%)も多く、「声かけを簡単に」(42.0%)、「声かけの態度の工夫」(41.0%)、「お礼やねぎらいを」(31.4%)、「信頼関係が出来ている介助者」(45.0%)、「1人で」(31.7%)などで構成されている。第6パターンに該当する事例は16件(7.3%)である。

第7パターンは平均11.8項目と最多の組み合わせであり、「声かけの態度の工夫」(99.8%)、「お礼やねぎらいを」(75.5%)、「1人で」(99.7%)、「信頼関係が出来ている介助者」(93.0%)、「清潔、血行など効果を説明」(93.4%)、「トイレ

時に実施」(93.1%)の6項目を共通ベースとして、「暖かいタオルを渡し自分で」(67.4%)、「清拭時間を本人のペースで」(56.3%)、「部分から開始」(55.9%)、「清拭布の温度」(74.6%)、「温度調節」(67.9%)、「コンプレックスを確認」(50.7%)など全分野にわたって構成されている。第7パターンに該当する事例は16件(7.3%)である。

第8パターンは平均5.9項目の組み合わせであり、「気持ちをくつろがせる」(99.7%)を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」(68.0%)、「お礼やねぎらいを」(51.4%)、「家族からの依頼」(65.9%)、「1人で」(50.5%)の4項目も多く、「複数のスタッフ」(43.8%)、「家族の協力」(42.5%)、「声かけを簡単に」(38.6%)、「他者から誘導」(28.4%)、「温度調節」(26.3%)などで構成されている。第8パターンに該当する事例は16件(7.3%)である。

第9パターンは平均3.6項目と最少の組み合わせであり、「家族からの依頼」(57.1%)を主として、「気持ちをくつろがせる」(44.3%)、「トイレ時に実施」(35.7%)、「家族の協力」(35.7%)、「信頼関係が出来ている介助者」(26.3%)、「内科受診のため」(32.8%)、「声かけを簡単に」(30.1%)などで構成されている。第9パターンに該当する事例は14件(6.5%)である。

第10パターンは平均8.4項目の組み合わせであり、「1人で」(99.5%)、「複数のスタッフ」(91.6%)、「声かけの態度の工夫」(84.0%)、「トイレ時に実施」(76.3%)の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」(61.7%)、「清潔、血行など効果を説明」(60.2%)、「お礼やねぎらいを」(53.3%)の3項目も多く、「清拭場所の調整」(45.1%)、「清拭布の温度」(37.7%)、「声かけを簡単に」(39.3%)、「薬を塗るため」(38.3%)、「コンプレックスを確認」(38.0%)、「暖かいタオルを渡し自分で」(30.3%)などで構成される。第10パターンに該当する事例は13件(6.0%)である。

第11パターンは平均6.8項目の組み合わせであり、「温度調節」(99.5%)、「声かけの態度の工夫」(91.2%)、「気持ちをくつろがせる」(81.1%)の3項目を共通ベースとして、「部分から開始」(44.7%)、「清拭時間を本人のペースで」(34.1%)、「信頼関係が出来ている介助者」(41.9%)、「家族の協力」(33.1%)、「コンプレックスを確認」(34.6%)、「お礼やねぎらいを」(29.1%)、「内科受診のため」(26.0%)などで構成される。第11パターンに該当する事例は12件(5.5%)である。

第12パターンは平均9.2項目の組み合わせであり、「声かけの態度の工夫」(99.7%)、「お礼やねぎらいを」(99.5%)、「声かけを簡単に」(99.3%)、「内科受診のため」(99.1%)、「家族からの依頼」(86.8%)の5項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」(74.6%)と「コンプレックスを確認」(63.0%)も多く、「複数のスタッフ」(49.3%)、「信頼関係が出来ている介助者」(38.2%)、「1人で」(36.9%)、「温度調節」(25.6%)、「清拭場所の調整」(25.2%)、「清拭時間

を本人のペースで」(37.7%)、「清潔、血行など効果を説明」(25.3%)、「他者から誘導」(25.1%)などで構成されている。第12パターンに該当する事例は8件(3.7%)である。

第13パターンは平均10.8項目の組み合わせであり、「信頼関係が出来ている介助者」(99.4%)、「1人で」(99.3%)、「温度調節」(99.2%)、「清拭布の温度」(99.1%)、「コンプレックスを確認」(99.2%)、「気持ちをくつろがせる」(99.4%)の6項目を共通ベースとして、「清拭場所の調整」(66.5%)、「複数のスタッフ」(66.8%)、「声かけの態度の工夫」(66.2%)、「家族からの依頼」(65.7%)の4項目も多く、「清拭環境の調整」に高いウェイトを置き、ほぼ全分野にわたって構成されている。第13パターンに該当する事例は6件(2.8%)である。

第14パターンは平均6.7項目の組み合わせであり、「トイレ時に実施」(98.8%)、「清潔、血行など効果を説明」(98.8%)、「声かけを簡単に」(98.7%)、「コンプレックスを確認」(98.1%)の4項目を共通ベースとして、「複数のスタッフ」(48.7%)、「清拭場所の調整」(49.5%)、「1人で」(49.5%)、「温度調節」(25.2%)などで構成されている。第14パターンに該当する事例は4件(1.8%)である。(表2-5-4-2参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表2-5-4-3参照)

(注3) 組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は(注1)に示したような局所独立を仮定して異なる部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのでも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold”が算出する“Classification Statistics”(分類精度情報)の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

(3) 解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、14の組み合わせパターンと解決後のパターンの相関を分析した後、参考までに個別状況との関連を確認する。

まず、解決方法の組み合わせ14パターンと解決後の5パターンの帰属確率による相関分析を行うと、3通りの相関が認められる。

1つめは、解決方法パターン7と解決後パターン4の相関が有意水準1%で認められる。解決方法パターン7は、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「1人で」、「信頼関係が出来ている介助者」、「清潔、血行など効果を説明」、「トイレ時に実施」の6項目を共通ベースに、全分野にわたる平均11.8項目と最多の組み合わせであり、その多様な方法が、解決後パターン4の“清拭を始めて「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった”を含めて、“拒否の

回数が減り、応じる回数が増えた”などの結果に貢献している傾向が読み取れる。

2つめは、解決方法パターン12と解決後パターン3の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン12は、“「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「声かけを簡単に」、「内科受診のため」、「家族からの依頼」の5項目を共通ベースにした平均9.2項目の組み合わせ”であり、これも多様な方法が、解決後パターン3の“入浴・清拭という言葉聞いても嫌がることは減った”に貢献している傾向が読み取れる。

3つめは、解決方法パターン1と解決後パターン2の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン1は、“「温度調節」、「信頼関係が出来ている介助者」、「部分から開始」、「お礼やねぎらいを」、「声かけの態度の工夫」の5項目を主とした平均6.4項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン2の“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表2-5-4-4参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても、上記3通りの傾向が確認できる。

1つめの解決方法パターン7では、解決後に“清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった”が29.7%、“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”が38.5%となっており、解決後パターン4の主要項目であるこの2つの項目が多くあがっている。

2つめの解決方法パターン12では、解決後に“入浴・清拭という言葉聞いても嫌がることは減った”が49.7%であり、解決後パターン3の主要項目が多くあがっている。

3つめの解決方法パターン1では、解決後に“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”が39.7%であり、解決後パターン2の主要項目が多くあがっている。(表2-5-4-5参照)

(4) 高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン1(一部介助、中程度重症度)に限定した相関分析を行うと、2通りの相関が認められる(注4)。

1つめは、解決方法パターン1と解決後パターン2の相関が有意水準5%で認められる。これは上記でみた全体的傾向の3つめと同様の傾向である。

2つめは、解決方法パターン4と解決後パターン2の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン4は、“「声かけの態度の工夫」、「信頼関係が出来ている介助者」、「1人で」、「コンプレックスを確認」の4項目を共通ベースとした平均7.8項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン2の“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表2-5-4-6参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこの2

通りの傾向が確認できる。

解決方法パターン1、同パターン4ともに、解決後に“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”が42.0%と41.9%であり、解決後パターン2の主要項目が多くあがっている。(表2-5-4-7参照)

また高齢者パターン2(全介助、中高程度重症度)に限定した相関分析を行うと、4通りの相関が認められる。

1つめは、解決方法パターン3と解決後パターン5の相関が有意水準1%で認められる。解決方法パターン3は、“「お礼やねぎらいを」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「他者から誘導」、「家族からの依頼」、「清拭場所の調整」、「声かけの態度の工夫」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン5の“拒否することが全くなかった”に貢献している傾向が読み取れる。

2つめは、解決方法パターン10と解決後パターン2の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン10は、“「1人で」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「トイレ時に実施」の4項目を共通ベースとした平均8.4項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン2の“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3つめは、解決方法パターン12と解決後パターン3の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン12は、“「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「声かけを簡単に」、「内科受診のため」、「家族からの依頼」の5項目を共通ベースにした平均9.2項目の組み合わせ”であり、その多様な方法が、解決後パターン3の“入浴・清拭という言葉聞いても嫌がることは減った”に貢献している傾向が読み取れる。

4つめは、解決方法パターン11と解決後パターン4の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン11は、“「温度調節」、「声かけの態度の工夫」、「気持ちをくつろがせる」の3項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン4の“清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表2-5-4-8参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこの4通りの傾向が確認できる。

1つめの解決方法パターン3では、解決後に“拒否することが全くなかった”が28.7%となっており、解決後パターン5の主要項目が多くあがっている。

2つめの解決方法パターン10では、解決後に“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”が98.6%であり、解決後パターン2の主要項目が独占している。

3つめの解決方法パターン12では、解決後に“入浴・清拭という言葉聞いても嫌がることは減った”が98.6%であり、解決後パターン3の主要項目が独占し

ている。

4つめの解決方法パターン11では、解決後に“清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった”が49.9%、“拒否の回数が減り、応じる回数が増えた”が100.0%であり、解決後パターン4の主要項目が多くあがっている。(表2-5-4-9参照)

(注4) 高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン1と2を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義(=クラスター化)した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

5) 清拭拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ1,267件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

(1) 役立った情報の概況

有効回答1,267件のなかで多くあがったものは、「本人の気持ち、意志」が584件(46.1%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が446件(35.2%)、「スタッフとの関係」が383件(30.2%)、「気分」が372件(29.4%)、「性格」が193件(15.2%)、「興味・意欲」が136件(10.7%)などであり、ひとつの解決方法当たり平均2.7項目あげられた。(表2-5-5-1参照)

(2) 役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果18の組み合わせパターンを得た。

第1パターンは平均2.3項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(99.8%)を共通ベースとして、「気分」(29.6%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(29.0%)、「スタッフとの関係」(25.2%)などで構成されている。第1パターンの該当方法は延べ226件(17.8%)である。

第2パターンは平均2.0項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」(65.0%)と「スタッフの声かけ内容・見守り方」(64.5%)を主として、「気分」(19.4%)などで構成されている。第2パターンの該当方法は延べ179件(14.1%)である。

第3パターンは平均2.2項目の組み合わせであり、「気分」(62.0%)を主とし

て、「清拭タオルの温度」(27.8%)、「本人の気持ち、意志」(21.0%)などで構成されている。第3パターンの該当方法は延べ137件(10.8%)である。

第4パターンは平均2.7項目の組み合わせであり、「性格」(99.2%)を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(39.5%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(31.5%)、「本人の気持ち、意志」(30.1%)などで構成されている。第4パターンの該当方法は延べ95件(7.5%)である。

第5パターンは平均2.7項目の組み合わせであり、「清潔度」(51.6%)、「皮膚疾患」(47.8%)、「失禁有無」(34.0%)、「排泄状況」(29.9%)など“健康面”にウェイトを置いて構成されている。第5パターンの該当方法は延べ87件(6.9%)である。

第6パターンは平均4.2項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」(99.7%)、「本人の気持ち、意志」(86.1%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(84.6%)の3項目を共通ベースとして、「気分」(47.6%)などで構成されている。第6パターンの該当方法は延べ86件(6.8%)である。

第7パターンは平均2.8項目の組み合わせであり、「興味・関心」(83.7%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(66.2%)や「気分」(52.3%)の“心理面”にウェイトを置いて構成されている。第7パターンの該当方法は延べ75件(5.9%)である。

第8パターンは平均2.6項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(50.8%)、「清潔度」(48.2%)、「清拭時間帯」(42.5%)、「入浴習慣(自宅)」(23.6%)などで構成されている。第8パターンの該当方法は延べ72件(5.7%)である。

第9パターンは平均1.6項目と最少の組み合わせであり、「家族関係」(41.3%)、「入浴習慣(自宅)」(26.3%)、「浴室環境(自宅)」(21.8%)などで構成されている。第9パターンの該当方法は延べ61件(4.8%)である。

第10パターンは平均3.0項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(34.0%)、「介護者の性別」(32.7%)、「下着の状態」(31.9%)、「気分」(30.9%)、「失禁有無」(22.3%)、「清拭時間帯」(21.5%)などで構成されている。第10パターンの該当方法は延べ51件(4.0%)である。

第11パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(99.8%)を共通ベースとして、「気分」(48.1%)、「生活歴(幼少期から)」(40.0%)、「言語理解」(22.2%)などで構成されている。第11パターンの該当方法は延べ47件(3.7%)である。

第12パターンは平均2.7項目の組み合わせであり、「他の入居者との関係」(99.0%)を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(37.2%)、「本人の気持ち、意志」(30.7%)、「性格」(28.7%)などで構成されている。第12パターンの該当方法は延べ43件(3.4%)である。

第13パターンは平均4.2項目の組み合わせであり、「性格」(99.6%)と「スタ

ップの声かけ内容・見守り方」(89.7%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(75.0%)、「気分」(43.6%)、「清拭時間帯」(33.9%)などで構成されている。第13パターンの該当方法は延べ29件(2.3%)である。

第14パターンは平均3.8項目の組み合わせであり、「過去の入浴体験」(99.3%)を共通ベースとして、「生活歴(幼少期から)」(49.2%)、「入浴習慣(自宅)」(31.7%)、「本人の気持ち、意志」(34.2%)、「認知機能」(23.9%)、「家族関係」(20.1%)などで構成されている。第14パターンの該当方法は延べ20件(1.6%)である。

第15パターンは平均4.7項目と最多の組み合わせであり、「気分」と「本人の気持ち、意志」(各99.7%)と「スタッフの声かけ内容・見守り方」(93.2%)の3項目を共通ベースとして、「介護者の性別」(73.9%)と「興味・関心」(68.2%)も多く、「言語理解」(29.1%)などで構成されている。第15パターンの該当方法は延べ19件(1.5%)である。

第16パターンは平均4.0項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(82.8%)を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(70.3%)も多く、「排泄状況」(28.0%)、「着脱能力」(26.3%)などで構成されている。第16パターンの該当方法は延べ18件(1.4%)である。

第17パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「妄想の有無」(98.9%)を共通ベースとして、「現病・既往歴」(34.3%)、「性格」(34.4%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(32.4%)、「スタッフとの関係」(25.6%)、「本人の気持ち、意志」(27.7%)などで構成されている。第17パターンの該当方法は延べ15件(1.2%)である。

第18パターンは平均3.9項目の組み合わせであり、「興味・関心」(99.2%)を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(57.7%)、「性別」(51.8%)、「趣味」(51.7%)の3項目も多く、「介護者の性別」(38.3%)、「他の入居者との関係」と「認知機能」(各25.9%)などで構成されている。第18パターンの該当方法は延べ8件(0.6%)である。(表2-5-5-2参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表2-5-5-3参照)

(3) 情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第5パターン(「清潔度」、「皮膚疾患」、「失禁有無」、「排泄状況」など“健康面”にウェイトを置いて構成された平均2.7項目の組み合わせ)は、「清潔、血行など効果を説明」が22.9%、「薬を塗るため」が20.5%、「トイレ時に実施」が21.6%と多い。

第12パターン(「他の入居者との関係」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「本人の気持ち、意志」、「性格」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ)は、「1人で」が27.1%、「他者から誘導」が22.0%と多い。

第18パターン(「興味・関心」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・

見守り方」、「性別」、「趣味」の3項目も多く、「介護者の性別」、「他の入居者との関係」、「認知機能」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ)は、「声かけを簡単に」が27.8%と多い。

第9パターン(「家族関係」、「入浴習慣(自宅)」、「浴室環境(自宅)」などで構成された平均1.6項目と最少の組み合わせ)は、「家族からの依頼」が22.9%、「家族の協力」が16.5%と多い。

第2パターン(「スタッフとの関係」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を主として、「気分」などで構成された平均2.0項目の組み合わせ)は、「声かけの態度の工夫」が22.4%、「信頼関係が出来ている介助者」が17.0%と多い。

第4パターン(「性格」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ)は、「信頼関係が出来ている介助者」が20.7%、「声かけの態度の工夫」が15.5%、「お礼やねぎらいを」が15.4%と多い。

第6パターン(「スタッフとの関係」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の3項目を共通ベースとして、「気分」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ)は、「声かけの態度の工夫」が19.4%、「信頼関係が出来ている介助者」が17.8%と多い。

第10パターン(「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「介護者の性別」、「下着の状態」、「気分」、「失禁有無」、「清拭時間帯」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ)は、「清潔、血行など効果を説明」が17.0%、「コンプレックスを確認」が15.9%と多い。

第15パターン(「気分」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の3項目を共通ベースとして、「介護者の性別」と「興味・関心」も多く、「言語理解」などで構成された平均4.7項目と最多の組み合わせ)は、「気持ちをくつろがせる」が17.0%、「声かけの態度の工夫」が16.7%と多い。

第11パターン(「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」、「生活歴(幼少期から)」、「言語理解」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ)は、「気持ちをくつろがせる」が17.8%と多い。

第13パターン(「性格」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「清拭時間帯」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ)は、「声かけの態度の工夫」が19.7%と多い。

第16パターン(「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」も多く、「排泄状況」、「着脱能力」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ)は、「信頼関係が出来ている介助者」が17.4%と多い。(表2-5-5-4参照)

6) 絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 238 件中、「無理矢理裸にして拭く」が 222 件(93.3%)、「強引な誘いや命令・指示的な声かけをする」が 215 件(90.3%)、「放っておいて全く関わらない」が 214 件(89.9%)、「本人の気分を無視して行う」が 208 件(87.4%)、「汚い、臭いから拭きましょうと声をかける」が 182 件(76.5%)、「だますような声かけをする」が 113 件(47.5%) となっている。(表 2-5-6-1 参照)

(表2-5-1-1) 回答者の年齢

	有効回答数	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
実数	251	10	19	41	27	24	30	35	45	20
パーセント	100.0	4.0	7.6	16.3	10.8	9.6	12.0	13.9	17.9	8.0

(平均年齢等)

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
251	44.2	12.3	21	76

(表2-5-1-2) 回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	258	43	215
パーセント	100.0	16.7	83.3

(表2-5-1-3) 回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネジャー	看護師	その他
実数	245	97	7	76	22	63
パーセント	100.0	39.6	2.9	31.0	9.0	25.7

(表2-5-1-4) 回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	248	21	82	68	0	1	76
パーセント	100.0	8.5	33.1	27.4	0.0	0.4	30.6

(表2-5-1-5) 回答者の所有資格

	有効回答数	看護師(准看護師)	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネジャー	ヘルパー	その他
実数	253	30	162	8	96	102	21
パーセント	100.0	11.9	64.0	3.2	37.9	40.3	8.3

(表2-5-1-6) 回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設(ユニット型)	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	256	2	4	244	4	8
パーセント	100.0	0.8	1.6	95.3	1.6	3.1

(表2-5-1-7) 回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
258	4.5	3.3	0.1	24.3

(表 2-5-1-8) 回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均年	標準偏差年	最小値年	最大値年
246	9.2	6.0	0.0	40.1

(表 2-5-2-1) 清拭拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	250	217	33
パーセント	100.0	86.8	13.2

(表 2-5-2-2) 高齢者の年齢

	解決経験のある有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	203	10	24	50	75	44
パーセント	100.0	4.9	11.8	24.6	36.9	21.7

(平均年齢等)

解決経験のある有効回答数	平均歳	標準偏差歳	最小値歳	最大値歳
203	84.8	6.0	62	105

(表 2-5-2-3) 高齢者の性別割合

	解決経験のある有効回答数	男	女
実数	214	36	178
パーセント	100.0	16.8	83.2

(表 2-5-2-4) 認知症の原因疾患

	解決経験のある有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	203	111	55	1	17	19
パーセント	100.0	54.7	27.1	0.5	8.4	9.4

(表 2-5-2-5) 機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答(=なし)
実数	217	2	2	51	9	153
パーセント	100.0	0.9	0.9	23.5	4.1	70.5

(表 2-5-2-6) 食事介助

	解決経験のある有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	203	6	41	156
パーセント	100.0	3.0	20.2	76.8

(表 2-5-2-7) 移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他(回答者追記)
実数	176	25	103	43	5
パーセント	100.0	14.2	58.5	24.4	2.8

(表 2-5-2-8) 排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助不要なし
実数	192	96	96
パーセント	100.0	50.0	50.0

(表 2-5-2-9) 入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	206	39	17	80	59	11
パーセント	100.0	18.9	8.3	38.8	28.6	5.3

(表 2-5-2-10) 認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	I	II	III	IV	V
		何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	ランクIIの症状がときどき見られ、介護を必要とする(徘徊、失禁など)	ランクIIの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	214	11	67	74	49	13
パーセント	100.0	5.1	31.3	34.6	22.9	6.1

(表 2-5-2-11) 身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J	A	B	C
		何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており自力で外出する	屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活主体で座位を保つ	一日中ベッドで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	206	26	145	32	3
パーセント	100.0	12.6	70.4	15.5	1.5

(表 2-5-2-12) 清拭拒否高齢者のパターン
(潜在クラス2クラスモデルのプロフィール)

(n=177)

項目	カテゴリー	全体	パターン1	パターン2
			一部介助、 中程度重症度	全介助、中 高程度重症度
サイズ		1.000	0.720	0.280
性別	男	0.164	0.195	0.084
	女	0.836	0.805	0.916
入浴介助	全介助	0.181	0.014	0.610
	移動介助	0.090	0.119	0.017
	洗身洗髪介助	0.407	0.423	0.366
	その他一部介助	0.277	0.382	0.007
	自立	0.045	0.063	0.001
認知症の 重症度	I	0.023	0.031	0.000
	II	0.322	0.443	0.012
	III	0.379	0.382	0.369
	IV	0.243	0.125	0.545
	V	0.034	0.019	0.074
身体障害の 重症度	J	0.119	0.127	0.098
	A	0.706	0.840	0.363
	B	0.164	0.034	0.499
	C	0.011	0.000	0.040

(参考) 該当事例数 → (177) (127) (50)

(表 2-5-2-13) 潜在クラスモデル評価 (清拭拒否高齢者パターン)
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1462.6	1424.5
モデル2(クラス数2)	1451.3	1371.9
モデル3(クラス数3)	1499.1	1378.4
モデル4(クラス数4)	1554.6	1392.6

(表2-5-3-1) 解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	入浴・清拭という言葉だけを聞いて拒否していた	色々な理由をつけて拒否していた	頑固に拒否していた	暴言、暴力を伴いながら拒否していた	その他
実数	216	15	52	108	62	51	9
パーセント	100.0	6.9	24.1	50.0	28.7	23.6	4.2

(表2-5-3-2) 解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	入浴・清拭という言葉聞いても嫌がることは減った	徐々に清拭の声かけを受けられるようになった	拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	拒否することが全くなかった	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	その他
実数	217	36	48	124	8	21	28
パーセント	100.0	16.6	22.1	57.1	3.7	9.7	12.9

(表2-5-3-3) 清拭拒否の解決前のパターン
(潜在クラス6クラスモデルのプロフィール)

(n=163)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
		色々な理由をつけて拒否していた	頑固に拒否していた	暴言、暴力を伴いながら拒否していた	入浴・清拭という言葉だけを聞いて拒否していた	複合的的清拭拒否	入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた
サイズ	1.000	0.398	0.161	0.152	0.145	0.105	0.038
入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	0.074	0.003	0.001	0.001	0.043	0.278	0.961
入浴・清拭という言葉だけを聞いて拒否していた	0.245	0.030	0.039	0.029	0.994	0.740	0.022
色々な理由をつけて拒否していた	0.522	0.999	0.105	0.070	0.051	0.720	0.335
頑固に拒否していた	0.288	0.012	0.994	0.068	0.056	0.984	0.026
暴言、暴力を伴いながら拒否していた	0.227	0.008	0.102	0.994	0.019	0.508	0.006

(参考) 平均項目数 → 1.4 1.1 1.2 1.2 1.2 3.2 1.4
 該当事例数 → (163) (65) (26) (25) (24) (17) (6)

(表 2-5-3-4) 潜在クラスモデル評価 (清拭拒否の解決前パターン)
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	888.9	873.5
モデル2(クラス数2)	852.0	818.0
モデル3(クラス数3)	855.9	803.3
モデル4(クラス数4)	858.7	787.5
モデル5(クラス数5)	870.2	780.5
モデル6(クラス数6)	884.3	776.1
モデル7(クラス数7)	913.9	787.0
モデル8(クラス数8)	943.0	797.6

(表 2-5-3-5) 清拭拒否の解決後のパターン
(潜在クラス5クラスモデルのプロフィール)

(n=163)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		拒否の回数 が減り、応じ る回数が増 えた	徐々に清拭 の声かけを 受入れるよ うになった	入浴・清拭と いう言葉を 聞いても嫌 がることは 減った	清拭を始め ると「気持ち がいい、こっ ちも拭いて」 と手や足を 出すように なった	拒否するこ とが全くな くなった
サイズ	1.000	0.536	0.188	0.139	0.087	0.050
入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	0.160	0.001	0.006	0.991	0.226	0.004
徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	0.227	0.006	0.994	0.081	0.224	0.130
拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	0.620	0.999	0.054	0.127	0.567	0.140
拒否することが全くなかった	0.049	0.000	0.001	0.000	0.001	0.969
清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	0.098	0.017	0.036	0.002	0.943	0.003
(参考)平均項目数 →	1.2	1.0	1.1	1.2	2.0	1.2
該当事例数 →	(163)	(87)	(31)	(23)	(14)	(8)

(表 2-5-3-6) 潜在クラスモデル評価 (清拭拒否の解決後パターン)
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	728.2	712.7
モデル2(クラス数2)	670.4	636.4
モデル3(クラス数3)	667.5	614.9
モデル4(クラス数4)	675.1	603.9
モデル5(クラス数5)	686.8	597.1
モデル6(クラス数6)	717.2	608.9
モデル7(クラス数7)	738.9	612.1
モデル8(クラス数8)	769.4	624.0

(表 2-5-3-7) 解決前後のパターンの相関行列
(全体)

(n=163)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			拒否の回数 が減り、応じ る回数が増え た	徐々に清拭 の声かけを受 入れるように なった	入浴・清拭と いう言葉を聞 いても嫌がる ことは減った	清拭を始める と「気持ち がいい、こっ ちも拭いて」と 手や足を 出すようになった	拒否すること が全くなっ た
解決前の パターン	パターン1	色々な理由をつけて拒否していた	0.092	0.034	-0.026	-0.081	-0.131
	パターン2	頑固に拒否していた	-0.033	0.053	-0.058	-0.037	0.116
	パターン3	暴言、暴力を伴いながら拒否していた	0.176 *	-0.073	-0.090	-0.122	0.018
	パターン4	入浴・清拭という言葉を知りたくて拒否していた	-0.077	-0.116	0.200 *	-0.009	0.071
	パターン5	複合的的清拭拒否	-0.237 **	0.120	-0.027	0.305 **	0.007
	パターン6	入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	-0.017	-0.014	0.016	0.071	-0.046

(注) 潜在クラス帰属確率による相関係数

(有意水準) 1%水準

**

5%水準

(表 2-5-3-8) 解決前後のパターンの相関行列
(高齢者パターン1 “一部介助、中程度重症度” の場合)

(n=123)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			拒否の回数 が減り、応じ る回数が増え た	徐々に清拭 の声かけを受 入れるように なった	入浴・清拭と いう言葉を聞 いても嫌がる ことは減った	清拭を始める と「気持ち がいい、こっ ちも拭いて」と 手や足を 出すようになった	拒否すること が全くなっ た
解決前の パターン	パターン1	色々な理由をつけて拒否していた	0.133	0.036	-0.063	-0.088	-0.160
	パターン2	頑固に拒否していた	-0.036	0.082	-0.087	-0.093	0.160
	パターン3	暴言、暴力を伴いながら拒否していた	0.118	-0.167	0.004	-0.075	0.094
	パターン4	入浴・清拭という言葉を知りたくて拒否していた	-0.082	-0.073	0.210 *	-0.024	0.008
	パターン5	複合的的清拭拒否	-0.207 *	0.106	-0.053	0.315 **	0.025
	パターン6	入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	-0.020	-0.014	0.022	0.089	-0.057

(注) 潜在クラス帰属確率による相関係数

高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した(集計手法制約上の配慮)

(帰属確率によるパターン1の事例数に近似するもやや異なる)

(有意水準) 1%水準 **

5%水準 *

(表 2-5-3-9) 解決前後のパターンの相関行列
(高齢者パターン2 “全介助、中高程度重症度” の場合)

(n=40)

		解決後のパターン					
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	
		拒否の回数 が減り、応じ る回数が増え た	徐々に清拭 の声かけを受 入れるように なった	入浴・清拭と いう言葉を聞 いても嫌がる ことは減った	清拭を始める と「気持ち がいい、こっ ちも拭いて」 と手や足を 出すよ うになった	拒否する ことが全 くなくな った	
解決前 のパターン	パターン1	色々な理由をつけて拒否していた	-0.076	0.039	0.113	-0.013	-0.086
	パターン2	頑固に拒否していた	-0.025	-0.032	0.025	0.087	-0.071
	パターン3	暴言、暴力を伴いながら拒否していた	0.346 *	0.077	-0.289	-0.256	-0.112
	パターン4	入浴・清拭という言葉を知りたくて拒否していた	-0.058	-0.229	0.173	0.005	0.348 *
	パターン5	複合的的清拭拒否	-0.319 *	0.158	0.042	0.287	-0.062
	パターン6	入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	-0.179	-0.064	-0.065	0.448 **	-0.030

(注) 潜在クラス帰属確率による相関係数

高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した(集計手法制約上の配慮)

(帰属確率によるパターン2の事例数に近似するもやや異なる)

(有意水準) 1%水準 **

5%水準 *